

令和6年度 園の自己評価

		評価 (1~5)
教 育 ・ 保 育	園児一人一人が安心感と信頼感をもって活動に取り組む体験を十分に積み重ねられるようにする →一人一人の思いを受け止め、安心して活動に取り組めるように配慮されていた。	5
	主体的な活動を促す環境の工夫をする →子ども達の発達差や興味の多様性に十分応じた環境を整えられるよう努力していたが、まだまだ工夫が必要であった。	4
	自発的な活動としての遊びを通して指導を行う →遊び(特に戸外)では、自発的な活動が展開されていた。	4
	園児一人一人の特性や発達に応じた指導を行う →子どもの特性や発達に応じて生活の仕方や遊びを工夫していた。	4
	活動によって保育所保育指針に示されている3つの資質・能力が育まれている →保育案では意識して立案はできたが、もっと具体的に意識できるような工夫が必要だった。	3
	保育所保育指針の幼児期の終わりまでに育つてほしい姿を意識し、教育・保育にあたっている →一日の前のことなどに応じることはできていたが、特に教育の面については一人一人がもっと勉強、もう少し理解・意識が必要だった。	3
	保健計画に沿った保健活動を行う →職員全員での保健計画の周知が必要である。	3
	園児の機嫌や食欲、顔色を観察し、平常とは異なった状態かどうか注意を払っている →子どもの体調の変化にすぐに気づけるように情報交換を職員間で密に行つた。また、熟だけでなく様々な体調の変化に気を配ることができた。	5
	体調不良や怪我が発生した場合、保護者に園児の状況を連絡し、適切な対応をとっている →連携を取り、迅速に対応することができた。	5
	園児の成育歴や罹患歴、予防接種状況などの情報を把握している →情報は収集できて把握しているが、その都度情報の更新ができていなかった。	5
健 康 支 援	感染症に対して感染症情報を保護者に伝え、感染症予防に努めている →定期的に情報発信することで、保護者の感染症への意識も高まり、早期対応ができた。	5
	感染症の疑いのある園児に対し、他児と接触しないようにするなど適切な処置、対応をしている →一部屋敷、子どもの安心等の都合上離しさを感じ、別室保育の対応はほとんどしてない。	3
	睡眠チェックを年齢に合わせて必ず行い、SIDSの危険因子が無いようにしている →チェック表を用いて睡眠中の様子を適切に観察、記録した。	5
	AEDの使い方も含めた心肺蘇生法について職員全員が理解できるようにしている →緊急時に備え、消防士と訓練できる機会を設けることができた。	5
	食育計画に沿って園児が食への興味や関心を高めることができるような活動や関わりをしている →栄養士を中心毎月食育計画に合わせた活動を行うことができた。栄養士と保育士も一緒にになって楽しむ工夫が今後は必要。	4
	安全、安心な給食やおやつの提供をしている →アレルギー要因の食材を排除した、安全、安心な給食・おやつの提供をすることができた。	5
	旬の食材を使用したり、行事食を取り入れたりするなど季節を感じられるような献立作成をしている →創意工夫をして旬の食材を取り入れた献立作成をしており、季節や行事を感じられたが、より楽しい食事の時間になるようさらなる工夫が必要。	4
	給食だよりにて情報発信をしている →給食に関する情報を発信していく。また、コドモのお知らせ機能を活用し写真付きの食事やおやつ、食育の様子も定期的に発信した。	4
	食物アレルギー対応を適切にしている →アレルギー食材を除去した献立作成、食器やお盆の差別化を徹底することを心掛けた。	5
	離乳食は家庭と情報交換をし、一人ひとりに合わせた献立を作成し、提供している →食材チェック表や保護者との情報交換を基に一人ひとりに合わせた献立作成や形状での提供ができた。	4

環境・衛生管理	室内の換気を適宜行い、室温、湿度や明るさ、音の大きさなど園児が心地よく過ごせる環境を整えている →温度のコントロールが難しかった。換気は意識して定期的に行うことができた。	4
	嘔吐物、排泄物の処理に当たっては感染防止のための処理を徹底している →いつでも確認できるようにマニュアルや準備はしていた。実演演習もできた。	5
	衛生的な空間で園児が生活できるよう、丁寧な清掃を行っている →こまめな清掃を心掛け、衛生的な環境を整備できた。	5
	調乳や園児の食事介助の際には、手洗いや備品の消毒をするなど衛生面の配慮をしている →手洗いの場面を丁寧に行えるように大切にしている。	5
	保育所保育指針、災害への備えに基づき、災害等の発生に備えるとともに、防火設備、避難経路等の安全点検を定期的に行っている →安全点検を定期的に行うことができた。	5
	保育所保育指針、健康及び安全に基づき、緊急時の対応の具体的な内容、手順、職員役割分担について確認をしている →訓練後の反省で確認を行っている。	4
災害への備え	毎月1回、避難訓練及び消火器訓練を行い、反省をして改善点について検討している →毎月の避難訓練後は反省を記入し、事故防止会議で情報を共有、改善点をその都度共有することができた。	5
	災害発生時の保護者への連絡、子どもの引き渡しを円滑に行えるよう体制や手順を決め、引き渡し訓練で確認をしている →引き渡し訓練では保護者に協力をいただき、手順や役割分担などを確認できた。よりスムーズな引き渡しができるように取り組んでいく。	4
	防災備蓄を用意し、保存期間の確認、必要に応じた入れ替えを行っている →数量や期限を書いた紙を掲示し、定期的に確認を行い、入れ替えや必要物品の追加を行っている。	5
	園児の人数確認を定期的に行い、所在把握をしている →登園時、活動前、活動後、給食、午睡、など生活の節目の時間には必ず人数確認を行っている。特に戸外活動の時はこまめに行つた。	5
	玩具の安全点検を定期的に行っている →毎日の玩具消毒で点検も行い、破損などがないか確認している。	5
	園外での活動に際して、事前に危険箇所を把握し、安全に活動できるようにしている →散歩マニュアルを作成し、周知している。	5
事故防止	日常的な事故予防として、ヒヤリハットを収集、分析し、事故予防対策に活用している →毎月事故後の分析、毎日のミーティング等で全職員への周知を行い、予防対策に活用できた。	5
	不審者の対応など危機管理について職員で周知している →埼玉県警による訓練を行い、実際に実践する機会を持つことができた。	4
	睡眠、水遊び、食事等の重大事故が発生しやすい場面について、マニュアルに基づきその場面に応じた適切な対応を行っている →マニュアルに基づいて保育を行い、マニュアルの内容を周知徹底できるようにした。事故の起こりやすい場面では、いつ事故が起こるかわからないので、引き続き事故予防に努める。	4
	保護者が積極的に半日保育体験に参加していただけるよう文書や掲示等で促している →9月～12月に行った。	5
	保護者からの相談に対してはプライバシーの保護や守秘義務を守り、親身に耳を傾ける態度で対応する →プライバシーの保護や、守秘義務に努めた。	4
	状況に応じて内部の体制をとったり、外部機関との連携をとり、適切な家庭支援を行う →園長を中心に適切な対応をした。	5
子育て支援の向上	地域における子育て家庭の保護者等に対する支援を適切に実施している(育児相談・園庭開放・子育て情報誌) →育児相談、ブックスタート、衣類パンクを通して保護者支援、地域支援を行った。	3
	内部研修を計画的に行い、職員が共通認識の下で教育・保育にあたることができるようにする →内部研修を計画、実践したが、予定通りいかないこともあったので、時間の使い方を検討する必要がある。	3
	キャリアアップを含む様々な内容の外部研修に参加できるよう職員体制を整え、資質向上に努める →オンライン中心に参加することができた。	4